

## 実際に機能するBCP規定類の策定とDR（ディザスタ・リカバリ）の構築（4119297）

「BCPの策定やDRの構築事例」を紹介するとともに、「コスト、技術力、構築持続年数、採算等」の観点から現実に則した策定や実装を学習します。この分野は、外部に委託すると構築費用が徐々に膨れ上がるため、「どの分野が自前主義に適し、またはクラウド(DRaaS)に適しているのか」も検討します。

開催日時	2019年7月31日(水) 10:00-17:00
カテゴリ	共通業務（契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理）・セキュリティ・システム監査 <b>専門スキル</b>
講師	石橋正彦 氏 (サイバー研究所 所長) 日本ユニシス（現BIPROGY）では中央銀行/都市銀行/信託銀行においてSWIFT決済に従事。ベリ ングポイント（現PwC)/ガートナーにてリスク管理を担当。フィナンシャルシステムプラン以降、 勘定系のネットバンキング業務に従事。JUASでは研究会に12年在籍し、講師を7年に渡り実施。
参加費	JUAS会員/ITC：33,000円 一般：42,000円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み） 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（日本橋堀留町2丁目ビル2階）
対象	情報システム部門の担当者、防災・災害の担当者、管理部門のIT担当者 職務：保守/運用、 リスクマネジメント レベル：システムエンジニア初級 <b>初級</b>
開催形式	講義、グループ演習
定員	20名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	6

### 主な内容

東日本大震災以降、BCPやIT-BCPの価値観の変化を余儀なくされました。これまで「（机上ベースでの）手順書や運用マニュアルを作ることがBCPの策定」と考えていた企業が被災を機に、考え方を改めています。また、「ディザスタ・リカバリ（DR）が構築できていない企業でも、工夫すればIT-BCPの策定やISO22301（BCMS）の認証取得も可能」と考えていた企業も考え方を変えつつあります。

本セミナーでは、「BCPの策定やDRの構築事例」を紹介するとともに、「コスト、技術力、構築持続年数、採算等」の観点から現実に則した策定や実装を学習します。この分野は、外部に委託すると構築費用が徐々に膨れ上がるため、「どの分野が自前主義に適し、またはクラウド(DRaaS)に適しているのか」も検討します。

#### 第1部 はじめに

- ・ BCPとは、IT-BCPとの違い
- ・ DR（ディザスタ・リカバリ）とは
- ・ IT-BCPとISO22301(BCMS)とは

#### 第2部 東日本大震災以降のIT-BCPの変遷と事例

- ・ 東日本大震災 前後のIT-BCP事例
- ・ IT-BCPからISO22301(BCMS)を構築した事例
- ・ 規定類の考え方

#### 第3部 ディザスタ・リカバリ実践

- ・ ディザスタ・リカバリの基礎
- ・ RPO/RT0、リカバリーポイントの基礎
- ・ ディザスタ・リカバリ構築で最低限知っておきたい基礎知識  
(ファイル・システム、VOL、mount、フェールオーバー、DHCP等)
- ・ ディザスタ・リカバリ構築の変遷

#### 第4部 ディスカッション(演習)

- ・ 当社のBCPとDR

## 第5部 今後の運用

- ・どこまでBCPとDRを実装/運用するのか
- ・クラウドが使えるのか、各種ソリューションやツール類の現状
- ・セカンダリ・サイトやデータセンター事業者の動向